

平成29年度 大学入門ゼミナール推薦図書(現代社会学科追加分)

(下記の図書3点は茨城大学図書館に所蔵されています)

<http://lib.hum.ibaraki.ac.jp/shyuzemi/shyuzemi.html>

★★入門

書名	ジオグラフィー入門 改訂新版		
著者	高橋伸夫ほか編	刊行年	2008
出版社	古今書院	価格	2,500円
コメント	まちづくり、観光、大震災、新幹線、サッカー、カーリなど、31のさまざまな面白いトピックから構成される本書は、皆さんが考えている「地理」のイメージをガラッと変えることでしょう。大学で学ぶ地理学は高校で学ぶ「地理」とは異なり、さまざまな事柄が対象であり、答えがまだ見つかっていない社会の問題に挑んでいく学問です。高校で「地理」を選択しなかった人にもわかりやすい内容で、大学で学ぶ地理学の一端を紹介していきます。		

★★基礎

書名	まなざしの地獄 — 尽きなく生きることの社会学 —		
著者	見田宗介	刊行年	2008
出版社	河出書房新社	価格	1296円
コメント	<p>1973年初出の有名論文を単行本化したもの。新たに付された大澤真幸氏の解説と併せて読むと、理解がしやすい。</p> <p>4人を射殺した犯人として1969年に逮捕された19歳の少年N・Nを手がかりとして、当時の日本社会を分析している。ある人間・ある事件を、例外事例としたり個々の内面の問題として扱うのではなく、その人間が置かれている諸関係や社会構造という観点で読み解くその手つきから、社会学という学問がどのようなものか、考えることができるだろう。「統計的な事実の実存的意味」「実存的な諸事実の統計的意味」という表現が登場するが、事例とデータの関係についても、注目してほしい。</p> <p>この本をきっかけに社会学を学ぶのであれば、社会学について順を追って丁寧に考える文体の『社会学入門一歩前』(若林幹夫)や、オーソドックスな社会学の領域を押さえている『社会学講義』(橋爪大三郎/大澤真幸他)などを手にとってみるとよい。</p>		

★★基礎

書名	社会調査のウソ — リサーチ・リテラシーのすすめ —		
著者	谷岡一郎	刊行年	2000
出版社	文藝春秋	価格	842円

コメント	<p>大学生であれば、さまざまなデータを探し、読み解き、ときには自ら分析することが求められる。しかし、そのデータのもととなっている調査が、どれほど信頼に足るものか、考えたことはあるだろうか。また、日常的に目にするニュース報道がどのように私たちに情報を提示しているか、普段どれだけ注意して見ているだろうか。</p> <p>この本は、適切とはいえない調査やその結果を報じた新聞記事をとりあげながら、社会調査の結果を読み解く際のポイントや調査の方法について、より多くの人を読みやすい文体で書かれている。若干古い本だが、多くの人が目にしやすい新聞というメディアを素材としつつも、社会調査の専門的な知識も挿し込んでいる点で、バランスがよい。ただ、『社会調査法入門』（盛山和夫）や『入門・社会調査法〔第3版〕』（轟亮・杉野勇編）などの、社会調査に関するオーソドックスな教科書も手にとりつつ、社会調査について学ぶべき項目を体系的に把握しておくことも同時に必要。</p>
------	---